

第二復員省公報 第一號



昭和二十年十二月一日(土)
第二復員大臣官房

○令 達

達第一號

第二復員省處務規程左ノ通定ム

昭和二十年十二月一日

第二復員大臣

第二復員省處務規程

第一條 大臣官房ニ需品部、史實調査部、臨時調査部、連絡部、醫務部、艦本整理部、航本整理部、施本整理部、庶務課及電信課ヲ置ク

第二條 大臣官房ノ各部課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

需品部	需品、燃料及衣糧ニ關スルコト
史實調査部	作戰、軍備、技術等史實ノ調査ニ關スルコト
臨時調査部	國際法規及俘虜ニ關スルコト
連絡部	終戰連絡ニ關スルコト
醫務部	醫務ニ關スルコト
艦本整理部	艦政本部ノ殘務整理ニ關スルコト
航本整理部	航空本部ノ殘務整理ニ關スルコト

施本整理部	施設本部ノ殘務整理ニ關スルコト
庶務課	祕書及文書ニ關スルコト
電信課	通信ノ實施ニ關スルコト

第三條 總務局ニ總務課、艦船運航課及掃海課ヲ置ク

第四條 總務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 所管行政ノ綜合調整ニ關スルコト
- 二 部外交渉一般ニ關スルコト
- 三 他ノ所掌ニ屬セザルコト

第五條 艦船運航課ニ於テハ特設輸送艦船ノ運航、補給及修理ノ企畫ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條 掃海課ニ於テハ掃海ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 人事局ヲ補任課、扶助課及業績課ヲ置ク

第八條 補任課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 補任及解任ニ關スルコト

二 其ノ他人事一般ニ關スルコト

第九條 扶助課ニ於テハ扶助業務ニ關スルコトヲ掌ル

第十條 業績課ニ於テハ戰役者ノ業績調査ニ關スルコトヲ掌ル

第十一條 經理局ニ主計課、會計課及契約課ヲ置ク

第十二條 主計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

第二復員省公報 第一號 昭和二十年十二月一日

<p>達第二號 地方復員局處務規程左ノ通定ム 昭和二十年十二月一日 地方復員局處務規程</p>	<p>一 豫算、決算、特別會計、收入及支出ニ關スルコト 二 給與、物品經理及監査證明ニ關スルコト 三 損害補償及慰藉ノ審査ニ關スルコト 四 國有財産ニ關スルコト 第十三條 會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル 一 本省ニ屬スル歳入、歳出ノ豫算決算及收支ニ關スルコト 二 本省ノ應用物品ノ供給並ニ郵便、電信及電話ノ取扱ニ關スルコト 三 局中他課ノ所掌ニ屬セザル事項ニ關スルコト 第十四條 契約課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル 一 賣買、貸借、請負其ノ他ノ契約ニ關スルコト 二 契約ノ殘務處理及契約物品ノ整理ニ關スルコト 第十五條 法務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル 一 司法及刑務ニ關スルコト 二 規律ノ維持ニ關スルコト 第十六條 前諸條ニ定ムルモノノ外從前ノ海軍省處務規程ノ例ニ依ル但シ首席副官トアルハ庶務課長トス</p>
<p>地方復員局處務規程 第二復員大臣</p>	<p>第一條 地方復員局ニ總務部、人事部、需品部、經理部、艦船運航部、掃海部、管業部及法務部ヲ置ク但シ大阪地方復員局ニハ管業部ヲ置カズ 第二條 總務部ハ左ノ事務ヲ掌ル 一 事務ノ綜合統制ニ關スルコト 二 涉外事項ニ關スルコト 三 通信ノ實施ニ關スルコト 第三條 人事部ニ於テハ人事ニ關スル事務ヲ掌ル 第四條 需品部ハ需品、燃料及衣糧ニ關スル事務ヲ掌ル 第五條 經理部ハ豫算、決算、監査、給與及契約並ニ其ノ他ノ會計經理ノ實行ニ關スル事務ヲ掌ル 第六條 艦船運航部ハ左ノ事務ヲ掌ル 一 特別輸送艦船ノ運航、補給及修理ノ企畫ニ關スルコト 二 艦船運航關係補缺員ノ收容及教育ニ關スルコト 第七條 掃海部ハ左ノ事務ヲ掌ル 一 掃海ニ關スルコト 二 掃海關係補缺員ノ收容及教育ニ關スルコト 第八條 管業部ハ左ノ事務ヲ掌ル 一 特別輸送艦船及掃海艦船ノ修理ニ關スルコト 二 工作應作業應關係殘務整理ニ關スルコト 第九條 法務部ハ司法及刑務ニ關スル事務ヲ掌ル 第十條 左ノ地ニ人事部ノ支部ヲ置キ所在地都府縣ニ於ケル人事部ノ事務ノ一部ヲ分掌セシム</p>

大湊地方復員局人事部	青森
大阪地方復員局人事部	奈良
舞鶴地方復員局人事部	京都、大津、福井
佐世保地方復員局人事部	佐賀、長崎
吳地方復員局人事部	廣島
横須賀地方復員局人事部	東京、中府、千葉、浦和、横濱

第十一條 左ノ地ニ掃海部ノ支部ヲ置キ所在地方面ニ於ケル掃海ノ實施ヲ分掌セシム

横須賀地方復員局掃海部	横須賀
吳地方復員局掃海部	吳、下關、徳山、佐伯、仙崎
佐世保地方復員局掃海部	佐世保、博多
舞鶴地方復員局掃海部	舞鶴、箕、敦賀、伏木、七尾、新潟
大阪地方復員局掃海部	大阪
大湊地方復員局掃海部	大湊

第十二條 復員(調査ヲ含ム)及艦船運航ニ關スル事務ヲ分掌セシムル爲左ノ地ニ地方復員局ノ上陸地連絡所ヲ設クルコトヲ得

大湊地方復員局上陸地連絡所	大湊、函館
大阪地方復員局上陸地連絡所	大阪
舞鶴地方復員局上陸地連絡所	舞鶴
佐世保地方復員局上陸地連絡所	佐世保、博多、鹿兒島
吳地方復員局上陸地連絡所	仙崎、大竹、下關、門司
横須賀地方復員局上陸地連絡所	浦賀、横濱

第十三條 長官ハ必要ニ應ジ部中事務ヲ分掌スル爲左ノ標準ニ依リ課ヲ置クコトヲ得

總務部、總務課、電信課
 人事部、補任課、扶助課
 經理部、主計課、會計課、契約課
 需品部、需品課、衣糧課
 管業部、管業課、造船課、造機課、計電課
 第十四條 人事部及掃海部ノ支部ニ支部長ヲ置キ復員官ヲ以テ之ニ充ツ夫々人事部長又ハ掃海部長ノ命ヲ承ケ支部ノ事務ヲ掌ル
 長官ハ前條ノ規定ニ依リ課ヲ置キタルトキハ復員官ニ課長ヲ命ズルコトヲ得
 第十五條 長官ハ必要ニ應ジ地方復員局各部長、人事部及掃海課長ハ部長ノ命ヲ承ケ課務ヲ掌ル

第二條 前條ノ外海軍人事部處務規程中地方海軍人事部ノ例ニ依ル

大阪地方復員局	神戸地方復員局	兵庫縣		
和歌山地方復員局	和歌山縣			
秋田地方復員局	秋田縣			
北海道				
釧路	函館	旭川		
支部分關シテハ 支部ノ擔任區 ニ關シテハ 札幌地方復員 局長ノ定ムル 所ニ依ル				

官房人第一號
 本年十二月一日海軍省官制等廢止、第二復員省官制等設置ノ際左記上欄各部ノ職員タリシ者ハ特ニ發令セララルモノノ外別ニ發令ヲ用フルコトナク各下欄ノ相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ
 職員備人ニ就キテモ本達ニ準ズルモノトス
 昭和二十年十二月一日
 第二復員大臣

記
 海軍大臣官房 第二復員大臣官房庶務課
 海軍省軍務局 第二復員省總務局

第二復員省公報 第一號 昭和二十年十二月一日

同 人事局	同 人事局	海軍功績調査部	同 人事局	海軍省經理局	同 經理局	同 法務局	同 法務局	同 電信課	第二復員大臣官房電信課	東京海軍通信隊	第二復員大臣官房需品部	同 醫務部	同 醫務部	海軍省軍需局	同 醫務部	海軍艦政本部	同 艦本整理部	海軍航空本部	同 艦本整理部	海軍施設本部	同 施本整理部	高等軍法會議	第二復員高等裁判所	東京軍法會議	東京復員裁判所	海軍省(出仕)	第二復員省(出仕)	各鎮守府司令部		同 通信隊		各警備府司令部	各地方復員局總務部
-------	-------	---------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------------	---------	-------------	-------	-------	--------	-------	--------	---------	--------	---------	--------	---------	--------	-----------	--------	---------	---------	-----------	---------	--	-------	--	---------	-----------

同 通信隊	同	出仕(附)
各鎮守府出仕(附)	同	
各警備府附	同	附
各海軍人事部	同	人事部
各海軍軍需部	同	需品部
各海軍經理部	同	經理部
各鎮守府、警備府軍法會議	同	兼第二復員地方裁判所 法務部
各海軍工廠	同	管業部
各地方海軍人事部	同	各地方復員人事部
各防備隊	同	各地方掃海支部
各港灣警備隊	同	
各艦船乘員	現職	備

官房人第二號
召集中ノ兵ニシテ第二復員省、地方復員局、地方復員人事部ニ勤務セシメラルル者竝ニ掃海及特別輸送艦船乗員タル者ハ特ニ發令セラルルモノノ外召集軍人タルノ身分ヲ有スル儘員トナルモノトス
昭和二十年十二月一日

○ 通 牒

第二復員大臣

官房庶第一號
昭和二十年十二月一日

第二復員大臣官房庶務課長

第二復員省大構内各廳長殿

文書ノ件名番號ニ關スル件通牒

第二復員省庶務規程ニ依ル文書ノ件名番號ハ左例ニ依ルコトニ定メラレ候

- 一 大臣、次官及官房庶務課長ノ名ヲ以テ發スル公文書
- 官房需第 號(官房需品部起案ノモノ)
- 官房史第 號(官房史實調查部起案ノモノ)
- 官房調第 號(官房臨時調查部起案ノモノ)
- 官房連第 號(官房連絡部起案ノモノ)
- 官房醫第 號(官房醫務部起案ノモノ)
- 官房艦第 號(官房艦木整理部起案ノモノ)
- 官房空第 號(官房航空整理部起案ノモノ)
- 官房設第 號(官房施本整理部起案ノモノ)
- 官房庶第 號(官房庶務課起案ノモノ)
- 官房電第 號(官房電信課起案ノモノ)
- 官房總第 號(總務局起案ノモノ)
- 官房人第 號(人事局起案ノモノ)

0087

<p>○轉官</p> <p>○雜款</p>	官房經第	號(經理局起案ノモノ)	新官名	舊官名	氏名	轉官月日
	官房法第	號(法務局起案ノモノ)	氣象技手	海軍技手	渡邊禮五	十月二十三日
	二 局長ノ發スル公文書		同	同	阿部忠	同
	二 復總務局第	號	同	同	長友久雄	同
	二 復人事局第	號	同	同	高橋亮一	同
	二 復經理局第	號	同	同	大關清	同
	二 復法務局第	號	同	同	八木龍二郎	同
	(註) 起案ノ課ヲ表示スル爲適當ノ文字ヲ挿入スルコトヲ得		同	同		
	三 官房各部長及電信課長ノ發スル文書		同	同		
	二 復需品部第	號				
二 復史實調査部第	號					
二 復臨時調査部第	號					
二 復連絡部第	號					
二 復醫務部第	號					
二 復艦本整理部第	號					
二 復航本整理部第	號					
二 復施本整理部第	號					
二 復電信課第	號					

第二復員省公報 第一號 昭和二十年十二月一日

第二復員省公報 第三號



昭和二十年十二月七日(金)

第二復員大臣官房

○通 牒

二復總務局第六號

昭和二十年十二月一日

第二復員省總務局長

關係 諸 官 殿

聯合國側ノ召喚又ハ訪問ヲ受ケタル際ノ行動及應接要領ノ件申進

聯合國側ヨリ史實資料、事件闡明資料等聴取ノ目的ヲ以テ聯合軍最高司令官又ハ聯合國調査機關ニ出頭ヲ要請セラレタル際ノ行動及應接要領竝ニ同様ノ目的ヲ以テ勤務所又ハ自宅等ニ聯合國記者其ノ他ノ訪問ヲ受ケタル際ノ應接要領左記ノ通定メラレ候條了知相成度

記

- 一 召喚ハ第二復員大臣官房庶務課ヲ通ジテ行ハルル召喚ノミニ應ズルモノトシ其ノ他ノ要請ニ對シテハ之ヲ經ル如ク措置スルモノトス
- 二 召喚ノ通知ヲ受ケタル際ハ已ムヲ得ザル事由アル場合ノ外成ルベク速ニ之ニ應ズル如ク行動スルモノトシ之ニ應ジ得ザル事由アル場合(遲延スル場合ヲ含ム)ハ其ノ旨ヲ速ニ第二

- 三 復員大臣官房庶務課長宛通知スルモノトス
- 四 召喚セラレタル際ハ先ヅ第二復員大臣官房庶務課ニ出頭シ諸連絡ヲ採リタル後要スレバ史實調査部ニ於テ應酬資料ニ關シ研究ヲ行フモノトス
- 五 聯合國側トノ會談終了シタル場合ハ其ノ狀況ヲ史實調査部及臨時調査部(政治及國際法關係事項)ニ連絡スルト共ニ會談要點摘録一通ヲ第二復員省總務局ヲ經テ提出スルモノトス
- 六 召喚セラレタル際ハ聯合國側トノ會談直前及直後ニ於テ第二復員省對聯合軍連絡機關ニ立寄ルヲ例トス
- 七 聯合國官憲又ハ記者等ノ質問事項ニ對スル應酬又ハ之等トノ對談中ニ在リテハ不明確ナル記憶ニ基ク陳述若ハ擔當以外ノ事項ニ互ル説明等ハ努メテ之ヲ避ケ以テ不統一ナル資料提供ニ依ル史實蒐集又ハ輿論等ノ混亂ヲ招來セザル如ク留意スルモノトス
- 八 聯合國側ノ訪問ヲ受ケ會談セル際ハ其ノ内容中第二復員省

- 之ガ爲聯合國側ノ召喚又ハ訪問ヲ受ケタルコトアルベキヲ豫期スル場合ハ豫メ史實調査部及臨時調査部等ニ於テ研究、打合せヲ行ヒ置ク等準備ニ遺憾ナキヲ期スルモノトス

關係事項ヲ摘録ノ上速ニ第二復員省總務局長、史實調査部長及臨時調査部長（政治及國際法關係事項）宛送付スルモノトス、會談内容機微ニ亘ルモノアルトキハ前項各部へ出頭ノ上連絡スルヲ例トス

九 部外者又ハ在郷者召喚セラレタル際ハ退京ニ當リ第二復員大臣官房庶務課ニ於テ旅費支給ヲ受クルモノトス

二復人事局補第四號ノ一
昭和二十年十二月一日

各廳長殿 第二復員省人事局長

人事ニ關スル文書竝ニ電報ニハ當分ノ開舊電報符號記載ノ件照會

人事ニ關スル文書竝ニ電報ニハ第二復員省等開設後ニ於テモ當分ノ開便宜上成シ得ル限リ舊電報符號（下士官、兵ニ在リテハ入籍番號）記載ノコトニ定メラレ候條可然取計相成度

○雜 款

○改稱

海軍省廢止ニ伴ヒ省内郵便局ハ十二月一日ヨリ霞ヶ關郵便局ト改稱セリ

○移轉

當隊ハ十一月十四日以後事務所ヲ神戸市生田區下山手通八丁目

善福寺内ニ移轉セリ

（大阪港灣警備隊）

當部ハ十一月二十一日大阪市東區北濱三丁目一九ニ移轉セリ

（大阪海軍經理部）

當部ハ十一月二十四日東京都品川區上大崎長者丸（舊海軍大學校構内）ニ移轉セリ

（財團法人海仁會本部）

○轉官

海軍書記兒玉 靜ハ五月三十一日運輸屬ニ、同佐々木作太郎ハ十月二十一日岩手縣屬兼岩手縣警部ニ執モ轉官セリ

○正誤

第五二一七號三九〇頁轉官ノ項中「氏名」ノ欄中終ノ行「濱田文路」ハ「濱田文路二」ノ誤

第二復員省公報 第四號

昭和二十年十二月八日(土)
第二復員大臣官房

○令 達

達第五號

第二復員省通信規程別冊ノ通定メ昭和二十年十二月十日ヨリ之ヲ實施ス

別冊ハ所要ノ向ニ之ヲ配付ス

昭和二十年十二月一日

第二復員大臣

○通 牒

官房總第九號

昭和二十年十二月五日

第二復員省副官

關係各廳長殿

郵便物ニ關スル件通牒

自今當分ノ間舊日本領土、舊日本占領地及外國宛郵便物ハ左記條件ニ依ルモノニ限リ取扱フコトニ定メラレ候

記

一 郵便物ノ名宛地域

(イ) 南朝鮮(北緯三十八度以南)、臺灣、舊南洋委任統治領、舊日本附屬島嶼(小笠原諸島及南西諸島)、中華民國、香

第二復員省公報 第四號 昭和二十年十二月八日



港、「マライ」、「スマトラ」、「ボルネオ」、「ジャバ」、「セレベス」、「ビルマ」、「フィリピン」諸島、印度支那、「シヤム」

(ロ) 軍事郵便ニ付テハ滿洲ノ除クノ外從來ノ通(海軍部隊ノ所在地別符別冊ノ通)

二 郵便物ノ種類及通信文

(イ) 官公署差出ノ郵便物ニ付テハ特種取扱ト爲サザル書狀及郵便葉書ニテ日本軍及日本人ノ歸還ニ關スル通信ニ限ル

(ロ) 前號以外ノ郵便物ニ付テハ特殊取扱ト爲サザル郵便葉書ニシテ安否ノ消息其ノ他個人的性質ノ通信内容ニ限ル

三 料 金

(イ) 舊日本領土及中華民國宛郵便物竝ニ軍事郵便物ニ付テハ従前ノ例ニ依ル

(ロ) 前號以外ノ郵便物ニ付テハ外國郵便料金ニ依ル(別冊添)

(參照) 軍事郵便ニ付テハ從來通即チ「○○郵便」○氣付ツ○○ツ○○何某」等トス

二復總務局第一五號

昭和二十年十二月一日

第二復員省總務局長

一五

各廳長殿
 第二復員省關係勤務員ノ服裝ニ關スル件通知
 首題ノ件ニ關シ左ノ通發電セラレタルニ付了知相成度

發 第二復員省總務局長

宛 部内一般

第〇一〇九四〇番電

第二復員省關係勤務員ノ服裝ニ關スル件
 第二復員省關係勤務員ノ服裝ニ關シテハ軍務一第二三八號及官
 房軍第二〇二二〇〇番電ノ通定メラル

○雜款

○移轉

横須賀海軍病院(本院)ハ十一月二十四日東京都目黒區下目黒
 雅叙園ヨリ横須賀市野比二六七八舊野比海軍病院ニ移轉シ舊野
 比海軍病院東山及湯瀬分院ハ本院分院トシテ接收セリ
 (横須賀海軍病院)

○事務開始

當部ヲ十二月一日静岡市追手町静岡縣廳内ニ設置シ事務ヲ開始
 セリ
 (静岡地方復員人事部)

當部ヲ十二月一日東京都芝區新橋七丁目十二番地(舊美術俱樂部)

部(電話芝四八六〇番)ニ設置シ事務ヲ開始セリ
 (横須賀地方復員局人事部東京支部)
 ○殘務整理
 本院ハ十一月二十日廢廳横須賀海軍病院(舊野比海軍病院)内
 ニ於テ殘務整理ヲ行フ
 (野比海軍病院)

○轉官

舊官	氏名	新官	轉官月日
海軍司政官	伍賀隆	終戰連絡中央事務局連絡官	十一月五日
同	平田繁	地方行政事務局事務官	十一月六日
海軍書記	木島干城	新潟縣屬	十月九日
海軍警部	廣瀬幸一	神奈川縣屬	十月十五日
海軍教員	米滿行哉	臺灣總督府臺北洲公立國民學校訓導	九月三十日
海軍編修書記	關浩一	大藏屬	十月十五日

○正誤
 十二月三日附第二復員省公報第二號令達欄一〇頁官房經第一號
 中「第二復員職員」ハ「第二復員部内」ノ同附則中「於テ」ハ
 「於テ」ノ誤

第二復員省公報 第七號

昭和二十年十二月十四日(金)
第二復員大臣官房

○令 達

内令第三號

第二復員裁判所及第二復員刑務所ノ定員ヲ各別表ノ通定ム

昭和二十年十二月一日

第二復員大臣

(別表添)

○通 牒

官房需第二號

昭和二十年十二月一日

第二復員大臣官房庶務課長

關係各廳長殿

糧食給與ニ關スル件申進

首題ノ件別紙ノ通定メラレ候

追テ昭和十八年官房需第二〇九號ハ廢止セラレ候

(別紙)

昭和二十年十一月三十日海軍省廢止セラレ第二復員省設置後ニ於テ左記該當ノ者ニ要スル糧食ハ別表第一ノ區分ニ依リ之ヲ給與ス

第二復員省公報 第七號 昭和二十年十二月十四日

前項ノ糧食品ニシテ規定ノ品種ヲ得ルコト困難ナルトキ其ノ他換給ノ必要アルトキハ別表第二ニ依リ適宜換給スルコトヲ得

- 一 艦船乗組員
- 二 艦船便乗中ノ軍官民
- 三 復員收容部ニ收容中ノ軍官民
- 四 内地陸上ニ在ル艦船乗組員タルベキ豫備員
- 五 外地ニ在ル軍官民ニシテ糧食ノ給與ヲ必要トスル者

(別表添)

○雜 款

○事務開始

東北復員監部ハ十二月一日仙臺市川内(元東北第三百三十一部隊)ニ於テ事務ヲ開始セリ

(東北復員監部)

佐世保地方復員局ハ十二月一日佐世保市白南風町(長崎縣立佐世保高等女學校内)ニ於テ事務ヲ開始セリ

(佐世保地方復員局)

○正誤

本年十二月一日内令第二號第四行「海軍令」ハ「海軍定員令」ノ

0093

第二復員省公報 第七號 昭和二十年十二月十四日

十二月八日公報官房總第九號郵便物ニ關スル件通牒中「第二復員省副官」トアルハ「第二復員大臣官房庶務課長」ノ孰モ誤

三三

第二復員裁判所定員表

考 備	計			録事、警査 復員官(法務科特務士官) 復員官補(法務科判任武官)	法務官			高等裁判所 裁 判 所	第二復員地方裁判所	
	復員官補(判任武官)	復員官(特務士官)	復員官(士官)		復員官(法務少將)	復員官(法務大佐)	復員官(法務科尉官)		横須賀、奥、 佐世保、舞鶴	大湊、大阪
一 第二復員高等裁判所首席法務官ハ第二復員省法務局長タル復員官(法務少將)ヲ以テ兼補シ他ノ兼務法務官ハ第二復員省法務局局長及地方復員局法務部長タル復員官(法務科士官)ヲ以テ兼補ス	内兼務八人	内兼務六人	内兼務四人	七内兼 務六人	兼務一	兼務一	兼務一			
二 東京復員裁判所ノ兼務法務官ハ第二復員省法務局局長及第二復員高等裁判所法務官タル復員官(法務科士官)ヲ以テ兼補ス	内兼務八人	内兼務六人	内兼務六人	七内兼 務六人	兼務一	兼務一	兼務一			
三 第二復員地方裁判所ノ兼務法務官ハ地方復員局法務部長及部員タル復員官(法務科士官)ヲ以テ兼補ス	内兼務八人	内兼務六人	内兼務六人	七内兼 務六人	兼務一	兼務一	兼務一			
四 第二復員高等裁判所ノ兼務録事及警査ハ第二復員省法務局附及東京復員裁判所録事及警査タル復員官(法務科特務士官)及復員官補(法務科判任武官)ヲ以テ兼補シ又ハ兼務セシム	内兼務八人	内兼務六人	内兼務六人	七内兼 務六人	兼務一	兼務一	兼務一			
五 第二復員地方裁判所ノ兼務録事及警査ハ地方復員局附タル復員官(法務科特務士官)及復員官補(法務科判任武官)ヲ以テ兼補シ又ハ兼務セシム	内兼務八人	内兼務六人	内兼務六人	七内兼 務六人	兼務一	兼務一	兼務一			
六 本表定員ノ外臨時必要ニ應ジ兼務者ヲ置クコトヲ得	内兼務八人	内兼務六人	内兼務六人	七内兼 務六人	兼務一	兼務一	兼務一			

(第二表)

考備	計			看守 看守 復員官補(法務兵曹)	看守長 復員官(法務科特務士官)	所長 復員官(法務科士官)	横須賀、吳、佐世保、舞鶴
	復員官補(下士官)	復員官(特務士官)	復員官(士官)				
所長ハ第二復員裁判所法務官ヲ以テ兼補ス	十八	二人	兼務一人	十	二	兼務一	

第二復員刑務所定員表

(昭和二十年十二月十四日第二復員省公報)

第二復員省公報 第九號

昭和二十年十二月十七日(月)
第二復員大臣官房

○令 達

官房總第二四號
海軍省經理局臨時調査班規程ハ第二復員省經理局ニ之ヲ適用ス
但シ班長ハ第二復員省經理局長之ヲ命ジ班員ノ人員ハ約十五人
トス

昭和二十年十二月一日

第二復員大臣

(十月三十一日海軍公報参照)

官房人第一七號

所屬長官ハ十二月十五日現在ノ在籍者(但シ内地勤務ノ工(鑛)
員ニ在リテハ十六日現在ノ在籍者)ニ付左記標準ニ依リ年末賞
與ヲ支給スベシ

昭和二十年十二月十四日

第二復員大臣

記

區 分	賞與額(本俸又ハ給料ニ付)	五月分以内	六月分以内
	扶養家族者 ナキ者	扶養家族者 有スル者	

第二復員省公報 第九號 昭和二十年十二月十七日

准士官、下士官、兵、判 任文官同待遇者、判任官 待遇囑託者、無待遇囑託 者、雇員及傭人(月給者)	五月分以内	六・五月分以内
雇員及傭人(日給者)	一五〇日分以内	一九五日分以内
工 員 (鑛)	一〇〇日分以内	一二〇日分以内
備 考	一 本賞與ノ期間ヲ本年七月一日ヨリ同十二月十五日 迄トス 二 扶養家族ノ範圍ハ臨時家族手當支給ノ例ニ依ル 三 囑託者中一時ノ報酬ヲ受クル者及本官アル者ニ對 シテハ支給セザルモノトス	

○通 牒

二復人事局補第一號ノ一五
昭和二十年十二月十四日

第二復員省人事局長

各地方復員局長官殿

辭令式ニ關スル件通知

各地方復員局掃海部支部職員辭令式ハ左例ノ要領ニ依リ實施セ
ラルベク候條可然取計相成度

職 員	辭 令 式
橫須賀地方復員局掃海部橫須賀支部長	橫須賀掃海支部長
吳地方復員局掃海部吳支部長	吳掃海支部長
副長	吳掃海支部長
吳地方復員局掃海部下關支部長	下關掃海支部長
佐世保地方復員局掃海部博多支部長兼分隊長	博多掃海支部長兼分隊長
大湊地方復員局掃海部大湊支部長	大湊掃海支部長

二復人事局補第二八號ノ一
昭和二十年十二月十四日

第二復員省人事局長
第二復員省經理局長

關係各廳長 殿

本年年末賞與支給ニ關スル件申進

本年官房人第一七號ニ依ル首題賞與ハ昭和十九年海人三機密第一〇號ノ四ニ依ルノ外左記ニ依リ取扱フモノト了知相成度

記

- 一、各省(廳)職員トシテ專任セラレタル定員外海軍武官ニシテ本年十二月十五日以前第二復員部内ニ復歸シタルモノニ對シテハ其ノ勤務期間ヲ第二復員部内ニ於ケル勤務期間ニ通算シ算出シタル金額ヲ現所屬廳ニ於テ支給ス
- 二、昭和十六年勅令第千二百四號ニ依リ部外ノ文官同待遇者ヨ

リ第二復員文官同待遇者ニ轉官職セシメラレタル者及明治三十八年勅令第四十三號ニ依リ所屬官廳ノ定員外ト爲リ第二復員部内ニ勤務セシメラレタル者等(以下臨時職員ト稱ス)ニ對シテハ左ニ依ルモノトス

(イ) 十二月十五日現在ニ於テ臨時職員タリシ者ニ對シテハ本賞與ノ全期間勤務セシモノト看做シ其ノ賞與金金額ヲ支給ス

(ロ) 十二月十五日以前第二復員部内ヨリ轉出スル臨時職員ニ對シテハ支給セズ

三 前各號ニ該當スル者ノ申十二月十五日附發令ノ者ニ對シテハ新所屬(廳)ニ於テ夫々其ノ賞與金金額ヲ支給スルモノトス

○ 雜 款

○ 移轉
第二復員省經理局會計課係給家族渡係ハ十二月八日東京都麹町區日比谷公園内(舊東京警備隊跡)ニ移轉セリ
(第二復員省經理局)

○ 正誤
十二月十日附第二復員省公報第五號令達欄一八頁達第七號第三條中「準シ」ハ「應シ」ノ誤

第二復員省公報 第二〇號

昭和二十年十二月十八日(火)
第二復員大臣官房

○令 簿

内令第四號
元海軍艦船又ハ特設艦船ニシテ掃海又ハ復員輸送任務ニ從事スルモノハ夫々掃海艦船又ハ特別輸送艦船トシ其ノ所管及所屬ヲ指定ス

所屬ノ指定ナキモノノ所屬ハ其ノ所管ト同一トス

昭和二十年十二月一日

第二復員大臣

内令第五號

元第一號驅潛特務艇	元第八十號驅潛特務艇
元第六十八號驅潛特務艇	元第二百二號驅潛特務艇
元第八十八號驅潛特務艇	元第十一號掃海特務艇
元第一百五十五號驅潛特務艇	元第十二號掃海特務艇
元第一百五十九號驅潛特務艇	元第十三號掃海特務艇
元第一百六十一號驅潛特務艇	元第十四號掃海特務艇
元第一百七十一號驅潛特務艇	

右掃海艦トシ横須賀地方復員局所管ト定ム

元第四十八號海防艦	元第二百二號海防艦
元第七十六號海防艦	元第四百四號海防艦
元第七十七號海防艦	元第五百十四號海防艦

元第一百五十六號海防艦	元第七十四號驅潛特務艇
元第二百十七號海防艦	元第七十五號驅潛特務艇
元敷設特務艇 黒神	元第七十九號驅潛特務艇
同 片島	元第八十六號驅潛特務艇
元第二百一號哨戒特務艇	元第八十七號驅潛特務艇
元第三百三十五號哨戒特務艇	元第九十八號驅潛特務艇
元第三百三十六號哨戒特務艇	元第一百十四號驅潛特務艇
元第三百三十七號哨戒特務艇	元第一百十五號驅潛特務艇
元第三百五十二號哨戒特務艇	元第一百七十七號驅潛特務艇
元第三百五十三號哨戒特務艇	元第二百二十七號驅潛特務艇
元第三百七十五號哨戒特務艇	元第二百三十三號驅潛特務艇
元第三百七十九號哨戒特務艇	元第二百三十九號驅潛特務艇
元第七十九號驅潛特務艇	元第二百四十五號驅潛特務艇
元第八十六號驅潛特務艇	元第二百四十六號驅潛特務艇
元第一百六十四號驅潛特務艇	

右掃海艦トシ吳地方復員局所管ト定ム

元海防艦 竹生	元第十二號海防艦
同 生	元第二十二號海防艦
同 鶴	元第二十六號海防艦
同 新	元第四十號海防艦
同 志	元第七十六號哨戒特務艇

第二復員省公報 第二〇號 昭和二十年十二月十八日

二九

元第七十一號驅潛特務艇	元第七十三號驅潛特務艇	元第二十三號掃海艇	元第八十一號驅潛特務艇
元第八十號驅潛特務艇	元第二百一號驅潛特務艇	元第一百二號掃海艇	元第九十三號驅潛特務艇
元第八十九號驅潛特務艇	元第二百十八號驅潛特務艇	敷設艇 石 崎	元第一百九十三號驅潛特務艇
元第九十號驅潛特務艇	元第二百三十二號驅潛特務艇	元第五十八號驅潛特務艇	元第一百九十四號驅潛特務艇
元第九十三號驅潛特務艇	元第二百三十一號驅潛特務艇	元第六十五號驅潛特務艇	元第一百九十六號驅潛特務艇
元第九十九號驅潛特務艇	元第二百四十二號驅潛特務艇	元第七十二號驅潛特務艇	元第二百三十二號驅潛特務艇
元第一百九十四號驅潛特務艇	元第二百四十七號驅潛特務艇	元第七十八號驅潛特務艇	元第二百三十七號驅潛特務艇
元第一百五十號驅潛特務艇	元第二百四十九號驅潛特務艇	元第八十一號驅潛特務艇	元第二百三十八號掃海特務艇
元第一百六十八號驅潛特務艇	元第十五號掃海特務艇	右掃海艦トシ大湊地方復員局所管ト定ム	
元第一百六十九號驅潛特務艇	元第十六號掃海特務艇	右掃海艦トシ大湊地方復員局所管ト定ム	
右掃海艦トシ佐世保地方復員局所管ト定ム		汽 船 第五德豊丸	汽 船 朝 日 丸
元第八十四號哨戒特務艇	元第六十六號驅潛特務艇	同 美 代 丸	同 眉 山 丸
元第五十七號驅潛特務艇	元第八十四號驅潛特務艇	同 第五桐丸	
元第五十七號驅潛特務艇	元第二百十九號驅潛特務艇	右掃海艦トシ奥地方復員局所管ト定ム	
元第六十七號驅潛特務艇	元第二百十九號驅潛特務艇	汽 船 第二鮮友丸	汽 船 第三高島丸
元第六十二號驅潛特務艇	元第二百三十九號驅潛特務艇	同 第三鮮友丸	同 太 東 丸
右掃海艦トシ舞鶴地方復員局所管ト定ム		同 阿 津 丸	同 親 和 丸
元第三十一號哨戒特務艇	元第八十五號驅潛特務艇	右掃海艦トシ大阪地方復員局所管ト定ム	
元第三百三十四號哨戒特務艇	元第二百三十二號驅潛特務艇	汽 船 第五京仁丸	汽 船 第七福榮丸
元第四號驅潛特務艇	元第二百四十一號驅潛特務艇	右掃海艦トシ大湊地方復員局所管ト定ム	
元第二十七號驅潛特務艇	元第二十一號掃海特務艇	昭 和 二 十 年 十 二 月 一 日	
元第八十三號驅潛特務艇	元第二十二號掃海特務艇		
右掃海艦トシ大阪地方復員局所管ト定ム			
元海防艦 倉 屋	代 橋 同 神 津		
元第四十九號海防艦			
			第二復員大臣

第二復員省公報 第二一號

昭和二十年十二月十九日(水)
第二復員大臣官房

○令 達

達第九號

第二復員部内勤務員ニ對スル海軍懲罰令ノ適用ニ關シ左ノ通定

△ 昭和二十年勅令第六百八十六號第三條及同年勅令第六百八十七號第十二條ノ規定ニ依リ第二復員官、第二復員官補及第二復員部内ノ文官ニ對スル海軍懲罰令ノ適用ニ關シテハ第二復員次官ハ大臣官房所屬職員ニ對シ地方復員局長官ハ其ノ部下職員ニ對シ各之ヲ長官ト看做シ第二復員省局長、大臣官房ノ各部課ノ長、地方復員局ノ部長、支部長及上陸地連絡所ノ首席職員、地方復員人事部ノ部長及支部長、第二復員裁判所ノ首席法務官、第二復員刑務所ノ所長並ニ特別輸送艦及掃海艦ノ長ハ各其ノ部下ニ屬スル者ニ對シ之ヲ所轄長ト看做ス
昭和二十年内令第二號第四項ノ規定ニ依リ第二復員部内ニ勤務スル海軍兵ニ對スル海軍懲罰令ノ適用ニ關シ亦前項ニ同シ
昭和二十年十二月一日

第二復員大臣

達第一〇號

第二復員省廳職名呼出略語別冊ノ通定ヲ昭和二十一年一月一日

第二復員省公報 第一一號 昭和二十年十二月十九日

ヨリ之ヲ實施ス

別冊ハ所要ノ向ニ之ヲ配付ス

昭和二十年十二月一日

第二復員大臣

達第一一號

地方復員局ニ於ケル物品出納命令官及物品會計官吏ノ區分左表ノ通定ス

昭和二十年十二月一日

第二復員大臣

品名	出納命令官	會計官吏
地方復員局所屬物品(艦船用物件及事業用物件ヲ除ク)	經理部長	經理部部員
艦船(運航及掃海)用物件	需品部長	需品部部員
管業部所屬用物件	管業部長	管業部部員
備考 會計官吏ハ出納命令官之ヲ命免シ其ノ旨報告スベシ		

○通 牒

官房總第二八號

昭和二十年十二月十七日

各地方復員局長官殿

第二復員次官

海軍ノ堀鑿セル地下壕ノ處分ニ關スル件申進

今次戰爭中堀鑿セル地下壕ハ左記ニヨリ處分ノコトニ定メラレタルニ付之ヲ堀鑿シタル官廳部隊(既ニ解散セラレタルモノハ其ノ所屬廳)ニ於テ適切ニ處理相成度

記

一 壕ノ管理使用

地表所有者ニ無償讓渡スルヲ原則トス但シ特殊ノモノハ所在都道府縣又ハ市町村ニ移管ス

二 危険防止措置

(イ) 現状ノ儘放置スルモ崩壞等危険發生ノ虞ナキモノ及危険發生スルモ他ニ損害ヲ及ボス虞ナキモノニ付テハ現状ノ儘放置スルコトトシ然ラザルモノニ付テハ補強、埋戻シ等極力危険發生防止ノ措置ヲ講ズ

(ロ) 危険防止ノ爲ノ工事ハ當該壕ヲ堀鑿シタル軍又ハ官廳ガ自己ノ責任ニ於テ之ヲ爲スヲ原則トスルモ解散、廢廳其ノ他事情已ムヲ得ザル場合ニハ都道府縣又ハ市町村ニ其ノ工事ヲ委託スルコトヲ得(書面ヲ以テ委託スルコト)

危険防止ノ爲ノ工事ヲ都道府縣又ハ市町村ニ委託シタル場合其ノ工事ニ要シタル費用ハ請求ヲ俟テ其ノ壕ヲ堀鑿シタル軍又ハ官廳ニ於テ之ヲ負擔ス

(ハ) 地上施設ノ所有者等ヨリ自己ノ負擔ニ於テ危険防止ノ措

三 損害賠償

置ヲ講ズル爲ニ其ノ費用ノ請求アリタル場合ニハ實費相當額ノ賠償(諸支出金、賠償金)ニ應ズルコトヲ得其ノ場合ニハ關係者ヨリ將來危険發生スルモ損害賠償請求等異議ノ申立ヲ爲サザル如ク保證書ヲ徴ス

(イ) 現實ニ崩壞等ノ危険發生シ地上施設等ニ損害ヲ及ボシタル場合(損害ヲ受ケタル地上施設等ノ官ノ所有ニ屬スル場合ヲ除ク)ニハ其ノ壕ヲ堀鑿シタル軍又ハ官廳ニ於テ其ノ損害ヲ賠償ス

(ロ) 賠償額ハ現實ニ發生シタル損害ノ程度ニ應ジ適正ニ之ヲ定ム

備考

本件中心ノ軍ノ責任ハ昭和二十年十二月一日以降復員省之ヲ繼承ス

○ 雜 款

○ 郵便物發送先

當分ノ開當艦宛ノ郵便物ハ左記ヘ送付相成度

記

神奈川縣浦賀局氣付

(特別輸送艦・神風)

第二復員省公報 第一三號

昭和二十年十二月二十一日(金)
第二復員大臣官房

○令 達

達第一二號
地方復員局處務規程中左ノ通改正ス

昭和二十年十二月十七日

第二復員大臣

第十二條表中吳地方復員局上陸地連絡所ノ項「門司」ヲ削リ
佐世保地方復員局上陸地連絡所ノ項「鹿兒島」ノ下ニ「門司」
ヲ加フ

(十二月一日第二復員省公報参照)

内令第一二號

掃海艦船及特別輸送艦船ノ呼稱ニ關シ左ノ通定ム

昭和二十年十二月二十日

第二復員大臣

- 元 軍 艦 何ハ 掃海艦又ハ特別輸送艦何トス
- 元 驅 逐 艦 何ハ同 何トス
- 元 海 防 艦 何ハ同 何トス
- 元 第何號海防艦ハ同 海第何號トス
- 元 第何號輸送艦ハ同 輸第何號トス

第二復員省公報 第一三號 昭和二十年十二月二十一日

- 元 第何號掃海艇ハ同 掃第何號トス
- 元 第何號驅潛艇ハ同 驅潛第何號トス
- 元 敷 設 艇 何ハ同 何トス
- 元 第何號敷設艇ハ同 敷第何號トス
- 元 第何號哨戒艇ハ同 哨第何號トス
- 元 特 務 艦 何ハ同 何トス
- 元 敷設特務艇何ハ同 何トス
- 元 第何號敷設特務艇ハ同 敷特第何號トス
- 元 第何號驅潛特務艇ハ同 驅潛特第何號トス
- 元 雜 役 船 何ハ 掃海艦又ハ特別輸送艦何トス 雜第何號トス
- 元 特設 艦 船 何ハ同 何トス

官房人第一九號

本年內令第一二號掃海艦船及特別輸送艦船ノ呼稱ニ關スル件施行ノ際現ニ當該艦船ノ職員タル者ハ特ニ發令セラルルモノノ外別ニ離令ヲ用ヒズシテ新名稱ノ各相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和二十年十二月二十日

第二復員大臣

官房經第一四號

昭和二十年官房經第四九七號中左ノ通改正ス

昭和二十年十二月二十日

第二復員大臣

第一號及第二號中「支出官」ノ下ニ「又ハ資金前渡官吏」ヲ加ヘ第二號中「三通」ヲ「四通」ニ、第二號及第四號中「海軍省」ヲ「第二復員省」ニ改ム

○ 遺 牒

二復經理局第一號

昭和二十年十二月一日

第二復員省總務局長
第二復員省經理局長

關係各廳長
特別輸送艦艇長 殿

日用品等配給ニ關スル件通牒

舊海軍艦艇ニ依リ外地ヨリ引揚ノ軍官民並ニ掃海其ノ他終職事務ニ従事スルモノニ對スル中央統制日用品(舊酒保物品等)ノ配給ヲ左記ニ依リ實施ノコトトセルニ付了知アリ度

記

一 配給先

經理局長ノ定ムル品種及配給標準ニ依リ左記用途ノモノニ限リ配給スルモノトス

(イ) 戰時特別給與品
左記ノ者ニ必要ナル日用品

配 給 對 象

記 事

1. 掃海艇乘員	
2. 特別輸送艦艇乘員	已ムコト得ザル事情アル民間引揚船ヲ含ム
3. 特別輸送艦艇便乗中ノ引揚軍官民	便乗中戰時特別給與品ニテ不足スル日用品
4. 特別輸送艦艇ニ依リ引揚シ上陸地連絡所滞留中ノ軍官民	上陸地連絡所内及歸郷地迄ノ旅行中必要ナル日用品
5. 外地残留員	資材及特別輸送艦艇船腹ノ許ス範圍内
6. 各管制廳ノ特ニ定ムルモノ	家庭ニ非ズシテ寄宿生活ヲ營ムモノ等ニ對スル日用品

(ハ) 接待用品

二 配給機關

經理局長トノ寄託契約ニ基キ淺野物産株式會社ヲシテ左記ノ如ク出張(派出)所ヲ設置シ經理局ニ代リ配給事務及作業ニ當ラシムルモノトス

管制擔當經理部	出張(派出)所	場	所
橫須賀地方	久里濱出張所	橫須賀市久里濱	
復員局經理部	浦賀派出所	橫須賀市浦賀	
大湊地方	大湊出張所	青森縣大湊町	

吳地方復員局	大竹出張所	廣島縣大竹町
吳派所	吳市	
針尾出張所	長崎縣針尾町	
佐世保派所	佐世保市	
博多派所	博多市	
舞鶴出張所	舞鶴市	

備考 淺野物産株式會社準備完了迄ハ海仁會配給所ニ於テ實施スルモ十二月末日迄ニハ全部引繼完了ノ見込

三 配給要領

- (イ) 第二復員省經理局ニ於テ一括裝附資材ノ取得、調達契約ノ締結、配給計畫ノ策定出荷指示等ヲ實施ス
- (ロ) 淺野物産株式會社ハ經理局契約ノ本品ヲ經理局ニ代リ代金支拂ノ上荷受保管シ置クモノトス
- (ハ) 一號ノ本品ヲ要求セントスル關係各部ハ管轄當地方復員局經理部ノ定ムル處ニ依リ淺野物産株式會社ノ各出張(派出)所ニ請求スルモノトス
- (ニ) 淺野物産株式會社ハ前項ノ請求アリタルトキハ荷造包裝ノ上舷側又ハ庫前渡ニテ關係各部ノ主計課長又ハ之ニ準ズルモノニ引渡スモノトス
- (ホ) 淺野物産株式會社出張(派出)所ハ淺野物産株式會社引取價格(經理局契約價格)ニ經理局所定ノ寄託料ヲ加算セ

第二復員省公報 第一三號 昭和二十年十二月二十一日

四 部内整理要領

ル價格ヲ以テ販賣スルモノトス
酒保設置規程第三條第四條第八條第九條第十條第十一條ヲ準用ス

二〇 準軍第二二號

委託契約書

海軍省經理局長山本丑之助(以下甲ト稱ス)ハ海軍艦艇ニ依リ外地ヨリ引揚ノ軍官民共ノ他甲ノ指定スルモノニ對スル職時特別給與品共ノ他日用品等(以下本品ト稱ス)ノ補給事務及作業ヲ委託スルタメ淺野物産株式會社副社長二宮 新(以下乙ト稱ス)ト契約スルコト左ノ如シ

第一條 乙ハ甲ノ斡旋契約又ハ割當ニ基キ甲ニ代リ本品ヲ引取り保管スルト共ニ之ガ代金ノ支拂ヲ爲スモノトス

第二條 乙ハ關係各部(以下丙ト稱ス)ノ請求アリタルトキハ遲滞ナク甲ノ指示スル標準ニ依リ本品ヲ賣却スルモノトス

第三條 第二條ノ乙ノ賣却價格ハ第一條ノ甲ノ契約スル價格ニ一五%ヲ加算スルモノトシ乙ハ其ノ加算額ヲ以テ其ノ受託ニ要スル一切ノ經費危險ヲ支辨スルモノトス

第四條 乙ハ甲ノ指定スル用途以外ニ本品ヲ販賣又ハ交付スルコトヲ得ザルモノトス乙ハ受託中本品ノ亡失毀損等アリタル場合ハ其ノ原因方天災共ノ他不可抗力等防制スベカラザル場合ノ外甲ノ査定ニ依リ現物辨償ノ責ヲ負フモノトス

第五條 本契約ニ定ムルモノノ外海軍契約規程並ニ同施行手續

ニ依ルモノトス

第六條 本契約ハ契約締結ノ日ヨリ有効ナルモノトス

昭和二十年十一月十四日

海軍省經理局長 山本 丑之助

淺野物産株式會社

副社長 二宮 新

○ 雜 款

○ 轉官

第二復員技師佐々木 淳 八十二月十三日外務技師ニ轉官セリ

○ 失官

海軍書記 [redacted] ハ強制猥褻、戰地強姦、逮捕監禁罪ニ因リ懲

役八年ニ處スルノ裁判確定シ容年十二月二十二日失官ト爲レリ

第二復員省公報 第一四號

昭和二十年十二月二十六日(水)
第二復員大臣官房

○ 令 達

達第一六號

昭和十四年達第二五二號海軍文官同待遇者雇員備人本務ヲ行フ際及海軍武官平服着用ノ場合徽章附著ノ件ハ當分ノ間第二復員部内ニ之ヲ適用ス但シ現ニ徽章ヲ有セザル高等官同待遇者ニ在リテハ士官ノ舊襟章用櫻花章一個ヲ以テ之ニ代ヘ判任官以下ニ在リテハ新調ノトキ迄之ヲ附著セザルコトヲ得

昭和二十年十二月二十五日

第二復員大臣

内令第一三號

第二復員省等ニ海軍軍人ヲ置ク等ノ件中左ノ通改正セララル
昭和二十年十二月一日

第二復員大臣

第一項中「及地方復員人事部」ヲ「地方復員人事部、第二復員裁判所及第二復員刑務所」ニ改ム

(十二月三日第二復員省公報内令第一號參照)

内令第一四號

驅潛隊編制中左ノ通改定セララル

昭和二十年十二月二十日

第二復員大臣

第十一驅潛隊ノ項中「第九號」ヲ削ル

内令第一五號

吳鎮守府在籍

第九號驅潛艇

右帝國驅潛艇籍ヨリ除カル

昭和二十年十二月二十日

第二復員大臣

内令第一六號

元第九號驅潛艇
右特別輸送艦トシ吳鎮守府所管ト定ム
昭和二十年十二月二十日

第二復員大臣

○ 通 牒

官房第四號

昭和二十年十二月十五日

第二復員大臣官房庶務課長

第二復員省公報 第一四號 昭和二十年十二月二十六日

關係各廳長殿

復員收容部ニ收容中ノ軍官民ニ對スル糧食給與ニ關スル件通知
昭和二十年十二月一日官房需第二號別紙第三號復員收容部ニ收容中ノ軍官民ニ對スル糧食給與ノ件ハ地方引揚援護局ノ所掌事項トナリタルニ付自然消滅ノ儀ト了知相成度

○雜款

○移轉

當部ハ十二月四日札幌市北一條四十四丁目ニ移轉セリ
電話番號 {札幌五六五六番
札幌六一九四番
(札幌地方復員人事部)

○事務開始

當部ハ十二月一日左記ニ於テ事務ヲ開始セリ

記

舞鶴市宇濱(舊施設部廳舎) 總務班
同 (舊舞鶴海兵團) 補充班
(舞鶴地方復員局艦船運航部)

當部ヲ十二月十一日廣島縣安藝郡船越町日本製綱廣島製作所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ
(吳地方復員局人事部廣島支部)

○取消

左記ノ者ハ十二月二十一日官房人第五一〇號ニ依ル召集ヲ取消サレタリ

記

- 海軍軍醫少佐 菅屋敏男(六八)
- 同 早川五郎(七七)
- 海軍軍醫大尉 阿部和男(二三四)
- 同 塚本 淳(二二三)
- 同 夏秋繁生(二六三)
- 同 松井太一(二七三)
- 同 白髭壽男(三〇〇)
- 同 原 廣之(三〇二)

○失官

休職海軍技師 [] ハ戰時收賄罪ニ因リ徵役一年六月ニ處スルノ裁判確定シ九月十二日失官ト爲レリ